

いながら、適当にクリックすると、次の画面で6つの店舗名が出てきました。

ここで、駐車場が確実に確保できるセブンパーク天美店を選択。その次に日時の入力。入力できる時間帯が限定されていたので、このお店は敢え無く断念。

次に選んだのは新北島店。ここは息子が好きな堺浜えんため館に近いので、マクドナルドの帰りに立ち寄るというプランを思いつく。

ただ駐車場が少ないため、予約入力画面のメッセージ欄に「(図々しくも) 駐車場を確保してもらえますでしょうか?」と追記すると、お店のほうから「障がい者用スペースがあります」との返信。つづいて「身体障がいのない知的障がいのある人もそのスペースを使っているのですか?」と再送信すると、「使ってください」とのお答え。

時折、障がいがありそうな方が誰一人乗っていない高級外車を障がい者用スペースに駐車されている光景を思い出し、私が普段抱いている不愉快な印象をこんどは私が周囲の人に与えてしまわないか?とちっちゃなしこりを残したまま、このやり取りは終わりました。

8月15日当日は、午後4時に予約していたところ、道が空いていて3時半に到着。幸い駐車場はガラガラの状態で障がい者用スペースを利用する必要もありませんでした。

店内もほとんど人がいない状態で、二人で注文カウンターへ。店員さんに「このチラシを見て予約したんですが・・・」と問いかけると、困惑され、奥のほうに入って行かれました。

数分経って店員さんが戻ってきて、「まだ専用スタッフが来ていません。しばらくお待ちください」とのこと。(えっ、その“待つ”というのが息子が最も苦手としている行動なんです・・・)

仕方なく注文はあきらめ、案内された予約席に通される。場所的には隅っこで、他のお客さんの視線に入らないように配慮されていました。

注文モードに入っていた息子の気持ちを一旦落ち着かせ、指定席でお絵描きを開始・・・待つこと15分、専用スタッフ(取締役のお母様)がお店に到着し、さきほどとは違う特別の注文カウンターへ。

息子はメニューを見ながら、ハンバーガー系2種類、スイーツ系2種類、飲み物を指差しました。言葉での注文はできませんでしたが、とりあえずマクドナルドでの初注文、初店内飲食ということで、まあ1時間かけて来た甲斐はあったかと思えます。飲食の途中、専用スタッフの方にお声かけいただきましたが、わが息

子はいつも通り完全に無視していました。

今回の実験はマクドナルド側にいろいろな目的があったかと思いますが、私としては、今回、店員さん達の反応を見て、世の中の中の大半の人は知的障がいのある人と接点がなく、どうしていいかわからない困り感を持っていると改めて気づかされました。

この経験を今後の障がい理解教育に生かさせていければと思っています。いい勉強させていただきました。

### 【初注文・初店内飲食しました

／マクドナルド新北島店にて】



### 全国的な過齢児の移行問題について感じたこと

理事長 長谷川 美智代

先月、障がい児入所施設で暮らす成人の知的障がい者が全国で283人いるという報道がありました。

児童福祉法に規定されている成人施設などに移る期限の18歳を過ぎていることから「過齢児」と呼ばれ、全国の児童施設(医療型施設を除く)の3分の1にあたる82施設(38自治体)に283人がおり、そのうち30歳代以上が66人、最高年齢は85歳とのことです。首都圏の児童施設には18～31歳の過齢児が6人おり、小中学生らが学校に行く日中は、未就学児と公園に行ったり、散歩をしたりして過ごすそうです。施設には成人を支援するための設備もなく、人員配置もされていないので職業訓練などもできません。全国手をつなぐ育成会連合会理事でもある明星大学吉川かおり教授は「成人施設は入所者が高齢化、長寿化して空きが出ない。少人数にきめ細かい支援をするグループホーム(以下、GH)は、重度障がい者の受け入れ態勢が整っていない。過齢児の行き場がない『目詰まり』の状態だ。」とのコメントを寄せられていました。

2012年に国は、障がいのある人の年齢に応じた支援を提供していくため、改正児童福祉法を施行しました。改正前、成人の児童施設での継続入所について、「支援が行き届かなくなる恐れがあれば認める」としてきた例外規定を今回撤廃し、18歳以上は成人施設やGHに移るよう求めました。2018年3月まで6